

真剣な表情で作業する参加者



触れて分かる、泉貨紙の魅力

◎伊予の和紙講座「柿渋×泉貨紙の立体クラフト」

12月15日、小倉コミュニティセンターで「柿渋×泉貨紙の立体クラフト」と題して伊予の和紙講座が開催されました。鬼北泉貨紙保存会会長の平野邦彦さん「上川」を講師に迎え、参加者らはまず、古くから「丈夫な紙」として知られる泉貨紙の歴史や紙と人間の関係などについて学習。その後は、柿渋を塗った泉貨紙を使って、クラフト作品づくりに挑戦しました。参加者らはコツが必要な作業に悪戦苦闘しながらも、その作業を通して泉貨紙の丈夫さを、身を持って体験していました。

とろろご飯に行列を作る来場者ら



名物「とろろご飯」に大行列

◎山芋まつり

毎年恒例の「山芋まつり」は12月8日、道の駅・森の三角ぼうしで開催されました。例年大好評の、その場ですりおろした山芋をかけた「とろろご飯」の販売は、今年も販売開始直後から大行列となり、あっという間に完売となりました。また会場では、鬼北町山芋研究同志会(会長・高田直義)が収穫した山芋の販売が行われ、訪れた人たちは会員らのアドバイスに耳を傾けながら、購入する山芋をじっくりと吟味していました。さまざまな季節の味が堪能できるこのイベント。訪れた人たちの顔には満足気な表情が浮かんでいました。

本物の投票箱を使って、投票体験



知ってほしい、選挙の大切さ

◎平成25年度中学生選挙啓発講座

12月10日、日吉中学校体育館で「平成25年度中学生選挙啓発講座」が行われました。この講座は、選挙制度等についての周知や、政治や選挙への関心を高めることを目的に、愛媛県選挙管理委員会が実施しているもので、この日は、実際の選挙で使われる記載台や投票箱を用いて、模擬投票や模擬開票などを実施。投票管理者や投票立会人などの役割も生徒が受け持ちました。生徒たちは「選挙について詳しく知らなかったけど興味を持てた」「20歳になったら選挙に行きたい」など、この体験を通して選挙への関心と知識を深めていました。

活発に意見を出し合う出席者ら



町の活性化を目指して

◎第1回鬼北のまちづくり懇話会

12月16日、近永公民館で「第1回鬼北のまちづくり懇話会」が開催されました。町の活性化を図るための仲間づくりや人材育成を目的に、大分県竹田市の元副市長である志賀克洋さんを講師に迎えて開催されたこの懇話会。志賀さんは、石積や石垣の美しさなどといった鬼北町の魅力を説明し、「これからのまちづくりは、100年後の世代にまで責任を持つ必要がある」と、まちづくりの手法について熱弁しました。この懇話会は今後も継続的に開催され、鬼北町のまちづくりについて考えていきます。